

気象データのビジネス活用セミナー

～データ解説編（令和6年度第1回）～
雨量から指数へ/火山噴火に関する情報

2024年8月5日

越智 正昭

気象ビジネス推進コンソーシアム（WXBC）

運営委員、人材育成WG副座長

国立大学法人愛媛大学大学院 客員教授

“災害”とは“災い”が“害”になると書きます

災い

災害の引き金となる
自然の脅威
(大雨など)



災いを害にしないために！

自然の脅威の「**奇襲攻撃**」を防ぐため、
「**予兆**」の見逃し防止対策
・ICTを活用した自動監視システムの提供

地域特性(都市の脆弱性)

地形

低地、扇状地、中洲、
傾斜地 等

土壌

土質、植生、斜面の傾
斜 等

開発

都市化、下水道等の
インフラ整備状況 等

平時から街の脆弱性を可視化し
リスクを評価(気象防災アナリスト)
・脆弱性の調査コンサルティング
・防災力評価診断コンサルティング

害

河川氾濫による浸水、
急傾斜地での土砂災
害 等

地すべり、土石流、深
層崩壊 等

内水氾濫、低地の浸
水 等

地域の特徴ごとに「害」の形が異なる

地域の特徴に応じた被害想定と監視の
閾値設定
(気象防災アナリスト)
・地域の特徴に応じた被害想定コンサルティング
・自動監視システムにおける監視閾値の調査
コンサルティング

“災い”を“害”にしないためには

自治体の防災活動を支援するためには、自然の脅威の専門性＋都市の脆弱性に対する知見が求められる。

